

- 祝 大橋酒店奥蔵・新蔵、
 匂阪家住宅（鶴屋本店）隠居部屋・文庫蔵
 4棟2箇所が国登録有形文化財へ P1～2
- 保存活用計画（案）への意見を募集しています P3
- 旧見付学校で消防訓練をおこないます・・・ P4
- 『歴史講演会こぼれ話』竹内直文・・・ P4

祝

大橋酒店奥蔵・新蔵、 匂阪家住宅（鶴屋本店）隠居部屋・文庫蔵 4棟（2箇所）が国登録有形文化財へ

このたび、国の文化審議会から答申が出され、見付地区にある大橋酒店の奥蔵・新蔵と匂阪家住宅（鶴屋本店）の隠居部屋・文庫蔵が国登録有形文化財（建造物）（※）に登録されることとなりました（非公開）。今回の登録で、市内における国登録有形文化財は、合計で24棟（12箇所）となります。磐田の歴史的建造物として、また、地域の資産としての価値が国に認められました。

※建てられてから50年を経過した建造物のうち、歴史的景観やその時代の特色、再現が難しい技術などを残している文化財を、国の文化審議会の審議・答申を経て、有形文化財に登録されたもの。

「見付」とお蔵

今回登録されることとなった国登録有形文化財のある見付地区は、江戸時代には東海道見付宿が広がり、明治以降も周辺地区から人や物資が集まり、大いに賑わっていました。その一方で、見付では火災も多発したことから、家財道具や商品を収納するための蔵、味噌や酒類を醸造するための蔵が造られるようになりました。現在も50以上の蔵が残されています。

大橋酒店奥蔵・新蔵

旧東海道沿いで、明治10年（1877）から酒屋を営む大橋家の土蔵2棟です。店の裏には今も蔵へと繋がるトロッコがあります。

奥蔵は、明治27年（1894）に建てられました。現在も商品収蔵用として使われています。外壁の腰（下半部）には、板を少しずつずらして張るきさらこしたみいたば箆子下見板張りがみられます。（右写真、矢印がさすの黒色部分）。



大橋酒店新蔵（西面）



大橋酒店奥蔵（西面および北面）

一方、明治30年（1897）に出来た新蔵は、外壁に水切（※）を三段付し、腰には伊豆石張が施されています。建築当時の図面や『土蔵普請諸費用つげたり附 込帳』なども伝わっており、建築の様子が確認できる貴重な資料です。建築当時から現在まで、文書蔵として利用されています。

※小さなひさし庇を横1列に設け、壁面に雨水の流れ落ちるのを防ぐもの

匂阪家住宅（鶴屋本店） 隠居部屋・文庫蔵

味噌と醤油の醸造元であった匂阪家（鶴屋本店）の隠居部屋と文庫蔵で、旧東海道の横道、玄妙小路に面しています。往時には敷地内に20棟を越す蔵がありました。店を閉じる際に、一番新しかった文庫蔵が残されました。



匂阪家（鶴屋本店）隠居部屋（左）・文庫（右）



平書院の下地窓

隠居部屋は、大正12年（1923）に完成しました。座敷の平書院の下地窓（※）など、すっきりと垢抜けた意匠を取り入れた近代和風住宅です。

文庫蔵は、大正6年（1917）に完成した、見付地区で唯一現存する3階建ての土蔵です。外壁は漆喰で塗られており、基礎は伊豆石積で、入口の反対側にも正面と同様に窓があります。現在も、当時の帳簿などが保管されています。

（※）矢印部分を出窓にせず、床の間と縁側の仕切りに採光窓として、障子や欄間などを入れたもの。隠居部屋では、採光窓を茶室などの建築でも用いられる、下地窓（壁の一部を塗り残し不揃いに配置した下地をみせた窓）にしている。

いずれの物件も、所有者の方が100年以上もの長い間、丁寧に使いながら大切にしてきた建造物です。今後も、地域の宝として守っていききたいものです。

まだまだあります見付のお蔵！

見付地区には、この度答申が出されたもの以外にも、国登録有形文化財になっている蔵、国指定史跡の蔵があります。

玄妙寺経蔵

昭和9年（1934）に建築されました。耐火性を重視した、戦前のコンクリート造経蔵の好例です。国登録有形文化財になっています。



玄妙寺経蔵



磐田文庫

磐田文庫（公開、見学できます）

元治元年（1864）に淡海国玉神社の神官・大久保忠尚が創設した文庫です。和漢の版本・写本850冊が収められていました。旧見付学校と共に国指定史跡になっています。

もっと知りたいあなたにお勧めの報告書！『見付のお蔵』

見付にある蔵を悉皆調査した成果をまとめた報告書です。市内の図書館で貸出しているほか、磐田市埋蔵文化財センターで販売もしています。

A4版 本文196ページ、
巻頭カラー図版付き
配布価格 2,000円



今回紹介した個人所有の建造物は非公開です。イベントなどで公開する際は、文化財だよりでお知らせします。

史跡旧見付学校附磐田文庫保存活用計画(案)への 意見を募集しています

現在磐田市では、貴重な文化財である「史跡旧見付学校附磐田文庫」を適切に次世代へ継承するため、現状と課題を整理した上で、今後の保存・活用を進めていくための指針となる基本的な計画について、令和6年度に文化庁の認定を受ける予定で策定を準備しています。

この度、本計画の案がまとまりましたので、市民の皆様から広く本計画に対するご意見を募集いたします。



旧見付学校

●募集期間

令和6年1月19日(金)まで

※意見の提出期限は、令和6年1月19日17時15分(必着)とします。

●閲覧・意見提出用紙入手方法

窓口 ・平日の8時30分～17時15分まで

文化財課(埋蔵文化財センター)、歴史文書館(竜洋支所内)

市役所市政情報コーナー(市役所本庁舎2階)

・火曜から日曜の9時から16時30分まで

旧見付学校、旧赤松家記念館

WEB 市ホームページ内パブリックコメント

(二次元コード①からご覧いただけます)



二次元コード①



二次元コード②

●応募資格

市内に在住、在勤、在学、事務所・事業所を有する方、本計画に利害関係を有する方

●意見の提出方法

意見提出用紙に必要な事項をご記入のうえ、次の方法により提出してください。

直接 文化財課へ提出(埋蔵文化財センター)

郵送 〒438-0086 見付3678-1 磐田市教育委員会文化財課 行

FAX 0538-32-9764

電子申請 市ホームページ内電子申請(二次元コード②から提出いただけます)

●意見の取り扱いについて

・意見募集の結果につきましては、内容ごとに整理し、市の考えとともに後日ホームページで公表します。個々の意見に対しての、個別の回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

・ご記入いただいた住所、氏名、連絡先等は史跡旧見付学校附磐田文庫保存活用計画の策定以外の目的で使用しません。また、意見募集結果の公表の際には、ご意見内容以外は公表しません。

●問合せ

磐田市教育委員会文化財課 TEL: 0538-32-9699 FAX: 0538-32-9764

Eメール: bunkazai@city.iwata.lg.jp

文化財防火デーにともない 旧見付学校で消防訓練をおこないます

1月26日の文化財防火デーにともない、旧見付学校で消防署と合同の消防訓練を実施します。

つきましては、近隣の皆様、来館者の皆様には交通規制などご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

- 日時 令和6年1月21日(日)
9時～11時30分(交通規制時間)
※訓練時間 10時～11時
- 場所 旧見付学校(磐田市見付 2452-1)
- 交通規制 旧見付学校南側駐車場と周辺道路
(右地図赤線道路部分)
※交通規制中の来館は見付駐車場をご利用ください
- 問合せ 旧見付学校 TEL:0538-32-4511



消防訓練の様子(R4年度撮影)



職員リレー コラム

歴史講演会ごぼれ話

竹内 直文

さる10月9日に「若き日の家康と磐田」と題した歴史講演会を開催し、おかげさまで多くの来場者をお迎えすることができました。

このイベントでは、戦国時代の研究者による講演とパネルディスカッションをおこないましたが、特別ゲストとして酒井忠次のご子孫である酒井忠久さんをお迎えしました。酒井忠次といえば旧見付学校にある「伝酒井の太鼓」(*)です。最初に出演の打診をしたとき、太鼓をたたくお願いをするのをためらっていると、酒井さんから「私は太鼓をたたけばよろしいんですかね」と言ってくださり、ほっとしました。酒井さんはたいへん穏やかな方で、事務局に手間がかからないようにと気配りをしてくださり、おかげで私たちもスムーズに事業を進めることができました。

酒井さんの地元である山形県鶴岡市には、酒井さんが名誉館長を務めている「致道博物館」があります。酒井家ゆかりの宝物ばかりかと思っていたら、移築した農家や、農具や漁労具も収集されています。これらはなくなる寸前で収集できたものだと言いました。いまでは国の文化財の指定を受けており、ご当主の先見の明に驚かされます。皆様もぜひ行ってみたいかがでしょうか。



致道博物館内に移築されている農家
(重要文化財・旧渋谷家住宅)

(*) 浜松城の太鼓で、忠次が三方ヶ原の戦いの際にたたいたと伝えられています。

編 国分寺公園でおこなわれた中部小学校の持
集 久走を見ました。寒空の下走る子どもたち
後 に元気を貰うと共に、先年度整備した基壇
記 も活用され、嬉しい気持ちになりました。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田 文化財だより



検索